

2026 年 1 0 月 2 5 日降誕前節第 9 主日 礼拝次第

永眠者記念日・主日礼拝

前 奏 (黙 想)

招きの言葉 使徒言行録14章 16～17 節(新約 241 頁)

讃 美 歌 573(光かけよ、主のみ民よ)

主の祈り <A>(讃美歌93-5)

詩 編 交 読 詩148編1～6節(交読詩編 165 頁)

聖 書 ヨブ記38章 1～18 節(旧約 826 頁)

祈 禱

讃 美 歌 382(力に満ちたる)

永眠者芳名

説 教 「すべてを知っているなら」 田中雅弘

讃 美 歌 504(主よ、み手もて)

信 仰 告 白 使徒信条<A>(讃美歌93-4)

献 金

讃 美 歌 88(こころに愛を)

派 遣 祝 福

後 奏 (黙 想)

報 告

※讃美歌は原則として全節を歌います。

聖 書 ヨブ記38章 1～18 節

主なる神の言葉

1 主は嵐の中からヨブに答えて仰せになった。

2 これは何者か。

知識もないのに、言葉を重ねて

神の経綸を暗くするとは。

3 男らしく、腰に帯をせよ。

わたしはお前に尋ねる、わたしに答えてみよ。

4 わたしが大地を据えたとき

お前はどこにいたのか。

知っていたというなら

理解していることを言ってみよ。

5 誰がその広がりを選んだかを知っているのか。

誰がその上に測り縄を張ったのか。

6 基の柱はどこに沈められたのか。

誰が隅の親石を置いたのか。

7 そのとき、夜明けの星はこぞって喜び歌い

神の子らは皆、喜びの声をあげた。

8 海は二つの扉を押し開いてほとばしり

母の胎から溢れ出た。

9 わたしは密雲をその着物とし

濃霧をその産着としてまとわせた。

10 しかし、わたしはそれに限界を定め

二つの扉にかんぬきを付け

11「ここまでは来てもよいが越えてはならない。

高ぶる波をここでとどめよ」と命じた。

12 お前は一生に一度でも朝に命令し

曙に役割を指示したことがあるか

13 大地の縁をつかんで

主の祈り A(讃美歌21 93-5-A)

天にまします我らの父よ、ねがわくはみ名をあがめさせたまえ。

み国を来らせたまえ。みこころの天になるごとく 地にもなさせたまえ。

我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。

我らに罪をおかす者を 我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ。

我らをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ。

国とちからと栄えとは 限りなくなんじのものなればなり。 アーメン。

神に逆らう者どもを地上から払い落とせと。

14 大地は粘土に型を押していくように姿を変え
すべては装われて現れる。

15 しかし、悪者どもにはその光も拒まれ
振り上げた腕は折られる。

16 お前は海の湧き出るところまで行き着き
深淵の底を行き巡ったことがあるか。

17 死の門がお前に姿を見せ
死の闇の門を見たことがあるか。

18 お前はまた、大地の広がり
隅々まで調べたことがあるか。

そのすべてを知っているなら言ってみよ。。

讃美歌382番

- 1 力に満ちたる わが神の愛よ、
とわに変わりなく 日々に新たなり。
- 2 大空と海は いつくしみ示し、
緑の大地は 恵みに包まる。
- 3 されど主の愛は 十字架にかかりし
主イエスの死にこそ 豊かに示さる。
- 4 死すべき人の死 身をもて味わい、
陰府にもくだりし その深き愛よ。
- 5 聖なるその朝 墓を打ち破り
よみがえる愛よ、力の主イエスよ。

讃美歌578番

- 1 光かけよ、主のみ民よ。
日は傾いて 闇はせまる。
花婿が来る 時に備え
祈りつづけよ、目を覚まして。
- 2 花婿が来る、さあ迎えよう。
ハレルヤ歌い、光がさせ。
宴ととのい 扉ひらく。
喜びに満ち、さあ迎えよう。
- 3 十字架を仰ぎ 苦難に耐え
栄えを受ける 聖徒たちよ、
勝利の冠 主にささげて
神の小羊 ほめたたえよ。
- 4 世界の望み 主なるイエスよ、
今ここに おいでください。
救いの時を 私たちは
心をあげて 共に祝おう。

讃美歌88番

心に愛を 豊かにみだし
日ごとのわざに つかわしたまえ

讃美歌504番

- 1 主よみ手もて 引かせたまえ
ただわが主の 道をあゆまん
いかに暗く けわしくとも
み旨ならば われいとわじ
- 2 ちから頼み 知恵に頼る
われと道を 選びとらじ
ゆくてはただ 主のみ旨に
ゆだねまつり 正しくゆかん
- 3 主よ飲むべき わがさかずき
選びとりて さずけたまえ
喜びをも 悲しみをも
満たしたもう そのまま受けん
- 4 この世を主に ささげまつり
神の国と なすためには
責めも恥も 死も滅びも
何かはあらん 主にまかせて

